

意思を伝える SNS

今回の学習のポイント

- ① 文字で伝えるということ
- ② 絵文字・顔文字を使ったコミュニケーション

文字で伝えるということ

インターネット、とりわけSNS（ソーシャル・ネットワーキング・サービス）の普及によって、だれでも手軽に他者とながりを持つことができるようになっていきます。家族や友人、知人など、身近な人とのコミュニケーションはもちろん、不特定多数の人に対しても簡単にメッセージを発信することも可能です。日常生活の中にある、当たり前前の道具として利用している人も多いのではないかと思います。

さて、みなさんはこのSNSをはじめとした「文字」によるコミュニケーションで、相手に伝えたいことを的確に伝えることができているでしょうか。

■二重の意味に注意！

【例】

「何で帰ってくるの？」

↓「何で」には、「何を使って（どのような手段、方法で）」の意味、

「どうして（なぜ）」の意味があり、メッセージを受け取る側がどう

解釈するかによって、思わぬ誤解が生まれることがあります。

【発展】

「一緒にラーメンでも食べに行こうか。」「いいよ。」

この会話の「いいよ」は、どんな意味で使われているのでしょうか？

意味①Ⅱ 「そうしよう」「うん、行こう」

意味②Ⅱ 「遠慮しておくよ」「私は行かなくてもいいよ」

会話の流れから、意味①と感じ取るのが自然かもしれませんが、意味②のつもりでメッセージを発信しているということもあり得ます。このように、「いいよ」という返事は「yes」「no」のどちらの意思表示にも使うことがあり、まったく解釈が変わってしまいます。文字だけで意思を伝えるには言葉足らずな表現であり、別の言葉を選ぶのが適切です。

国語監修・執筆

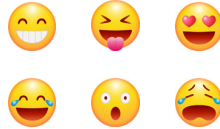
中澤匠吾

伝えたいことがどのように伝わるのかは、「自分がどう思っているか」ではなく「相手がどう理解するか」によって決まります。メッセージ送信の際には、「この言葉でしっかり伝わるのか」を見直してから送るような心構えがあるとよいでしょう。

絵文字・顔文字を使ったコミュニケーション

特にSNSのコミュニケーションにおいては、漢字やかな文字などの「字」だけで表されたメッセージは、固く、乾いた味気ない印象を与えがちです。メッセージに絵文字、顔文字を添えることで、内容に親しみを感じさせ、優しい印象を生むことができます。

《絵文字の例》



《顔文字の例》

、(≥▽≤)ノ
 (o´・_・`o)ノ
 (*´ω`*)ノ

【発展】

次のA、Bではどのような印象の違いがあるでしょうか。

- Ⓐ ごめんなさい
- Ⓑ ごめんね
 (・´ω`・)ゞ

Ⓑのように、謝るメッセージにも顔文字がつくことで、深刻な謝罪という印象が薄れます。仲間同士、親しい関係の中で気軽に謝りたいというときには、そうした微妙な意味合いを伝えることもでき効果的です。

ただし、誠実に謝らなければならない状況では、相手をかえって不快にさせてしまう場合もあります。目上の人に対して使うのも（時と場合にもよりますが）適切ではありません。

絵文字・顔文字は、相手や場面、目的を見極めて使い分けましょう。

まとめ

「文字」だけで意思を伝える場合、選ぶ言葉によって、自分が思っていることが十分に伝わっていないということがあります。これはSNSのみならず、手紙やメモなどにも同様のことが言えます。相手の顔が見えず、また、声の調子を伝えることもできない分、どのように表現するかをしっかりと考えることが大切です。

手軽で便利なSNSによるコミュニケーションを十分に活用していくためには、誤解やトラブルを招かないよう、メッセージを届ける相手のことをよく想像し、適切な言葉を選び、表現の工夫をしていくようにしましょう。